

当社の建物および設備における石綿使用状況

東北電力株式会社
平成28年3月31日現在

対 象		使用箇所	現状（使用状況等）	備考（対応状況 他）
石綿を含有する吹付け		設備機器室、予備電源室等の防音材、断熱材、耐火材として一部の壁面や天井に使用	- 使用箇所を把握し計画的に対策を施してきている。 - 自社建物：2棟 3棟（飛散性の低いバミキュライト吹付け） - 変圧器防音材：2台	石綿を含有する吹付けの状態を定期的に監視し、撤去や必要に応じて固化等の飛散防止対策を講じるなど適切に管理している。可能な限り早期に対策を実施していく。
石綿含有製品	建材	建物の耐火ボード、床材等に使用	・H18.8以前に使用された建材に含まれていると考えられる。それ以降は石綿含有製品は使用していない。	成形品であり、通常状態において飛散性はないため、建物の撤去工事や設備の定期検査、修繕工事等の機会に合わせて順次、非石綿製品に取り替えていく。
	防音材	変圧器の防音材（変電設備・水力発電設備）	・8台	
	石綿セメント管	地中線用の管路材料（送電設備）	・管路全長：約1km	
	保温材	発電設備（火力設備・原子力設備）	・石綿含有製品残数：約2.7千m ³ （全数の約1割）	
	シール材・ジョイントシート	発電設備（火力設備・原子力設備）	・石綿含有製品残数（営業運転中設備）： （火力）約9.4万個（全数の約半数） （原子力）約10万個（全数の約8割）	
	緩衝材	送電設備等の懸垂碍子	・懸垂碍子：約8.8万個（全数の約3割） （碍子内部の緩衝材として石綿含有製品を使用）	成形品であり、加えて碍子内部に封入されているため、通常状態において飛散性はないが、修繕工事等の機会に合わせて順次、非石綿製品へ取り替えていく。
	増粘剤	架空送電線用の電線	・防食電線：亘長約1,140km （送電設備総回線延長の約5%）	油性材料（防食グリース）と一体化しているため、通常状態において飛散性はないが、修繕工事等の機会に合わせて順次、非石綿製品へ取り替えていく。
	その他	上記以外にも石綿含有製品を一部使用しているが、いずれも成形品であり、通常使用時において飛散性がないため、撤去工事、修繕工事等の機会に合わせて順次交換・撤去していく。		